

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 令和5年4月18日（火）

3 調査対象（仙台市・国立・私立を除く）

| 対 象 | 調 査 事 項 | | 参 加 状 況 | |
|---------|----------|--|---------|---------|
| | 教科に関する調査 | 質問紙調査 | 実施校数 | 参加児童生徒数 |
| 小学校第6学年 | 国語、算数 | 学習意欲、生活習慣・学習習慣、規範意識・自己有用感等 | 235校 | 9,236名 |
| 中学校第3学年 | 国語、数学、英語 | | 132校 | 9,263名 |
| 学 校 | | 授業改善・生徒指導、教科の指導方法、学校運営、教職員の資質向上、家庭や地域との連携等 | | |

※小学校に義務教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部）を含む。

※中学校に義務教育学校（後期課程）、特別支援学校（中学部）を含む。

4 調査結果の概要

（1）教科に関する調査の結果

※ Pはポイント

| 対 象 | 教 科 | 宮城県 (仙台市を除く) 平均正答率(%) | 全 国 平均正答率(%) | 全国との かい離(P) |
|-----|-----|-----------------------------|-----------------|----------------|
| 小学校 | 国 語 | 65 | 67 | -2 |
| | 算 数 | 58 | 63 | -5 |

| 対 象 | 教 科 | 宮城県 (仙台市を除く) 平均正答率(%) | 全 国 平均正答率(%) | 全国との かい離(P) |
|-----|-----|-----------------------------|-----------------|----------------|
| 中学校 | 国 語 | 68 | 70 | -2 |
| | 数 学 | 44 | 51 | -7 |
| | 英 語 | 39 | 46 | -7 |

【参考】

正答数による比較

| 校 種 | 教 科 | 問題数 | 平均正答数 | | |
|-----|-----|-----|--------------------|---------|----------|
| | | | 宮城県（問） （仙台市を除く） | 全国平均（問） | 全国との差（問） |
| 小学校 | 国 語 | 14問 | 9.1 | 9.4 | -0.3 |
| | 算 数 | 16問 | 9.3 | 10.0 | -0.7 |
| 中学校 | 国 語 | 15問 | 10.2 | 10.5 | -0.3 |
| | 数 学 | 15問 | 6.6 | 7.6 | -1.0 |
| | 英 語 | 17問 | 6.7 | 7.7 | -1.0 |

令和4、5年度の平均正答率一覧

| 校 種 | 教 科 | 年 度 | 問題数 | 宮城県 （仙台市を除く） 平均正答率 （%） | 全国平均正 答率（%） | 仙台市を含 む平均正答 率（%） | 全国とのかい離 （P） | |
|-----|-----|-----|-----|---------------------------------|----------------|------------------------|----------------|------------|
| | | | | | | | 宮城県 | 仙台市 を含む |
| 小学校 | 国 語 | R5 | 14問 | 65 | 67 | 66 | -2 | -1 |
| | | R4 | 14問 | 62 | 66 | 64 | -4 | -2 |
| | 算 数 | R5 | 16問 | 58 | 63 | 60 | -5 | -3 |
| | | R4 | 16問 | 58 | 63 | 60 | -5 | -3 |
| 中学校 | 国 語 | R5 | 15問 | 68 | 70 | 70 | -2 | 0 |
| | | R4 | 14問 | 68 | 69 | 69 | -1 | 0 |
| | 数 学 | R5 | 15問 | 44 | 51 | 48 | -7 | -3 |
| | | R4 | 14問 | 45 | 51 | 49 | -6 | -2 |
| | 英 語 | R5 | 17問 | 39 | 46 | 44 | -7 | -2 |
| | | H31 | 21問 | 50 | 56 | 53 | -6 | -3 |

※英語の前回実施は、平成31年度。

(2) 質問紙調査の結果

<児童生徒質問紙調査>

- 自分には、よいところがあると回答した割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。〔児童生徒質問紙4〕
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。〔児童生徒質問紙10〕
- 学校の授業以外で、平日に小学生が30分以上、中学生が1時間以上学習する割合は、小学生が全国値を上回るものの、中学生では下回っている。〔児童生徒質問紙17〕
- 学習の中でICT機器を、週3回以上使用したと回答した割合は、小・中学生ともに全国値を上回っている。〔児童生徒質問紙(小)29(中)33〕
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した割合は、小・中学生ともに全国値を上回っている。また、授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていると回答した割合は、小・中学生ともに全国値を上回っている。〔児童生徒質問紙(小)34・38、(中)38・42〕
- 国語の勉強が好きだと回答した割合は、小・中学生ともに全国値を上回っている。算数・数学の勉強が好きだと回答した割合と英語の勉強が好きだと回答した割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。〔児童生徒質問紙(小)43・51・55、(中)47・55・59〕

<学校質問紙調査>

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では全国値より高く、中学校では同程度である。〔学校質問紙11〕
- 児童生徒に対して、よい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったと回答した学校の割合は、全国平均と変わらない。〔学校質問紙13〕
- 「主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善」に関する質問では、中学校で全国値とのかい離が大きい項目が見られる。〔学校質問紙(中)26～36〕
- 「小学校教育と中学校教育の連携」に関する質問では、小・中学校ともに全国値を上回る項目が多い。〔学校質問紙(小)67～69、(中)75～77〕
- 「家庭学習」に関する質問では、小・中学校ともに全国値を上回る項目が多い。〔学校質問紙(小)75～77、(中)83～85〕
- 「調査結果の活用」に関する質問では、小・中学校ともに全国値を上回る項目が多い。〔学校質問紙(小)78～80、(中)86～88〕

5 今後の対応

宮城県教育委員会では、宮城県検証改善委員会、学力向上マネジメント支援事業、市町村教育委員会との連携による学校サポート事業の実施等により学力向上対策に力を入れてきた。

今後も、市町村教育委員会と課題意識の共有を図りながら、学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していく。

令和7年度県立高等学校組織編制計画について

令和7年度県立高等学校組織編制計画について、中学生の進路選択への影響に配慮し、学科改編が生じる学校について予めお知らせします。

（栗原地区）

【令和6年度】

| | |
|--------------|------------------|
| 迫桜高等学校 | |
| 総合学科 | <u>5学級（200人）</u> |
| 【系列（入学後に選択）】 | |
| 人文国際系列 | |
| 自然科学系列 | |
| 福祉教養系列 | |
| 情報ビジネス系列 | |
| エンジニアリング系列 | |
| アグリビジネス系列 | |



【令和7年度】

| | |
|--------------|------------------|
| 迫桜高等学校 | |
| 総合学科 | <u>4学級（160人）</u> |
| 【系列（入学後に選択）】 | |
| 人文社会系列 | |
| _____ | |
| 福祉教養系列 | |
| 情報ビジネス系列 | |
| エンジニアリング系列 | |
| アグリビジネス系列 | |

※ 人文国際系列と自然科学系列を統合し、人文社会系列とします。

（石巻地区）

【令和6年度】

| | |
|--------------|------------------|
| 水産高等学校 | |
| 海洋総合科 | <u>4学級（160人）</u> |
| 【類型（入学後に選択）】 | |
| 航海技術類型 | |
| 機関工学類型 | |
| 生物環境類型 | |
| フードビジネス類型 | |
| 調理類型 | |



【令和7年度】

| | |
|--------------|-----------------|
| 水産高等学校 | |
| 船舶運航科 | <u>1学級（40人）</u> |
| 【類型（入学後に選択）】 | |
| 航海類型 | |
| 海洋工学類型 | |
| 生物環境科 | <u>1学級（40人）</u> |
| 食品科 | <u>1学級（40人）</u> |
| 【類型（入学後に選択）】 | |
| 食産業類型 | |
| 調理類型 | |

※ 海洋総合科について、より専門性の高い教育活動を展開するため、船舶運航科、生物環境科、食品科の3学科に改編します。

宮城県公立高等学校入学者選抜の実施に係る検証結果について

1 検証の主旨

令和2年度宮城県公立高等学校入学者選抜が新制度のもとではじめて実施され、令和3年度及び令和4年度と3回の選抜を行ってきた。高等学校入学者選抜審議会専門委員会では、その実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点についてその効果を検証し、併せて、新制度の一層の定着に向けての改善の方向性についての検討を行った。

2 検証の方法

(1) 質問紙調査の実施

イ 調査期間

令和4年5月から令和4年6月まで

ロ 調査対象

- ・ 県内の国立・公立・私立の中学校、中等教育学校、特別支援学校【悉皆】
- ・ 県内の公立高等学校（ただし、美田園高等学校を除く）【悉皆】
- ・ 高等学校入学者選抜審議会の専門委員会で抽出した公立高等学校20校に在籍する令和4年度1～3年生の生徒及びその保護者【任意】

(2) 高等学校入学者選抜審議会専門委員会における審議

3 審議の経過

令和3年9月～2月 専門委員会における審議（質問紙調査の内容検討等）

令和4年5月～6月 質問紙調査の実施

令和4年9月～11月 専門委員会における審議（質問紙調査集計結果分析等）

入学者選抜審議会への中間報告

令和5年7月 専門委員会における審議（検証結果の最終報告について）

入学者選抜審議会への最終報告

4 検証の観点

(1) 旧制度からの変更点の効果

(2) 制度の今後一層の定着に向けた改善の方向性

5 検証事項

別冊資料参照

6 検証結果

(1) 令和2年度から始まった新入試制度は、旧制度の課題を概ね解消しているとして、どの調査対象においても肯定的に受け入れられていることから、入試制度改革には一定の成果が認められる。

(2) 検証から明らかになった新制度の課題については、次のように対応する。

イ 「求める生徒像」、共通選抜と特色選抜の分かりにくさについて、令和7年度に「求める生徒像・選抜方法一覧」を更新し、記載内容や表現等を工夫してより分かりやすいものにする。

ロ 選抜日程について、引き続き入学者選抜審議会において十分に審議する。

令和５年度学校施設等安全点検講習会について

1 目的

教職員に対し、学校施設・設備の点検を行う際のポイントや問題があった場合の対応等を講義・フィールドワークにより学ぶ「安全点検講習会」を実施し、教職員が行う安全点検の取組意識及び技術の向上を図る。

2 日時・場所

- (1) 令和５年７月２６日（水）午後１時３０分から午後４時まで
岩沼市立岩沼西小学校
- (2) 令和５年８月 ７日（月）午後１時３０分から午後４時まで
宮城県涌谷高等学校

3 受講対象者

希望する各市町村教育委員会から推薦のあった教職員３９名
希望する県立学校の教職員３５名

4 内容

- (1) 「宮城県学校施設等安全点検講習会」資料を活用した講義
- (2) フィールドワーク
- (3) グループ討議

5 講師

白石工業・石巻工業・古川工業高等学校建築科教員

6 参加した受講者の声

- (1) 安全点検における具体的な視点について、講義やフィールドワークを通して理解することができた。グループ討議では、他校での取組を共有することができ、とても参考になった。
- (2) 児童生徒の目線や気持ちを想像し、複数の目で記録を取りながら安全点検を実施することが大切であると実感した。

7 その他

講習会終了後は、各地域や学校等において、受講内容を効果的に活用する機会等を設定し、講習内容を広く共有することで、教職員の取組意識や技能の向上につなげる。